

## テーマ展

# 韓国の伝統工芸 I -家具にみる美の世界-

会期：平成15年12月12日(金)～平成16年1月25日(日)

会場：佐賀県立名護屋城博物館企画展示室

「韓国の伝統工芸」展は、名護屋城博物館で収集・所蔵している朝鮮半島の伝統的な工芸資料を一堂に紹介する展覧会です。今回はその1回目として、伝統家具を中心とする様々な木工芸資料を、形態・用途、装飾技法、装飾に描かれた対象の3つの視点から紹介します。これらは、朝鮮時代に制作されたものがほとんどですが、参考資料として、韓国

重要無形文化財技能保有者の方々の作品などの現代資料もあわせて展示しています。

朝鮮時代の家具は、限られた居住空間を有効に利用するため、コンパクトで機能性に優れ、実用的であるのが大きな特徴です。男性の生活空間であるサランパン（舍廊房）の家具は、質素儉約を勧める儒教の影響を受け、装飾が少なくシンプルなものが中心です。一方、女性の生活空間であるアンパン（内房）はサランパンとは対照的に、螺鈿をはじめ様々な装飾が施された色鮮やかなものが中心になっており、それぞれ独特的の魅力があります。

どうぞゆっくり御観覧いただき、朝鮮家具の洗練された形態や美しい装飾の魅力にふれていただければと思います。



サランパン(舍廊房)の様子

## I 形態・用途にみる伝統家具

### (1) 書棚

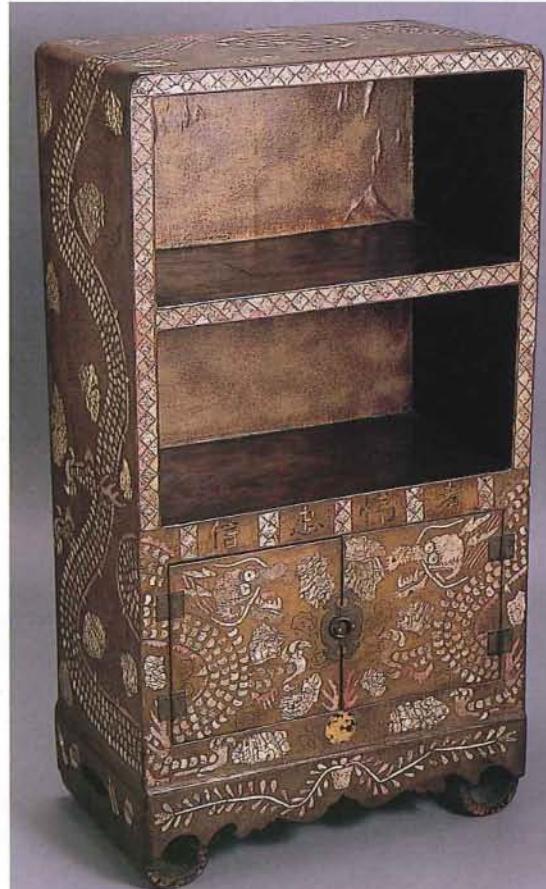
儒学が推奨された朝鮮時代には、書棚はサランパン（舍廊房）家具の中でも欠かせない家具の1つであった。書棚には、前面に両開き式の扉がついた筆筒状の冊檻（チエクチャン）と、前面の扉のない卓子（タクチャ）がある。また、卓子には前面の扉だけでなく側板・背板もない飾り棚の機能を兼ね備えたものも多く見られる。

### (2) 文匣

貴重品や文房具・本などを入れて整理・保管するためのものである。前面の板を外して物を出し入れする構造になっている。壁沿いに配され、上には筆筒や置物が置かれることもある。同じ仕様のものが2点1組で使われることが多い。



ムンガップ  
文 匣 朝鮮時代



さめ かわ そうりゅうもん タク チャ  
鮫皮双龍文卓子 朝鮮時代

### (3) 文机

本を読んだり筆をとったりするための机で、部屋のほぼ中央に置かれる。書案がその典型で、非常にシンプルな構造が特徴である。一方、経床は、もともと僧侶が寺で経典を読む際に使ったもので、巻物などが落ちるのを防ぐために両端が上に反っている。朝鮮時代に書机として一般に用いられるようになった。



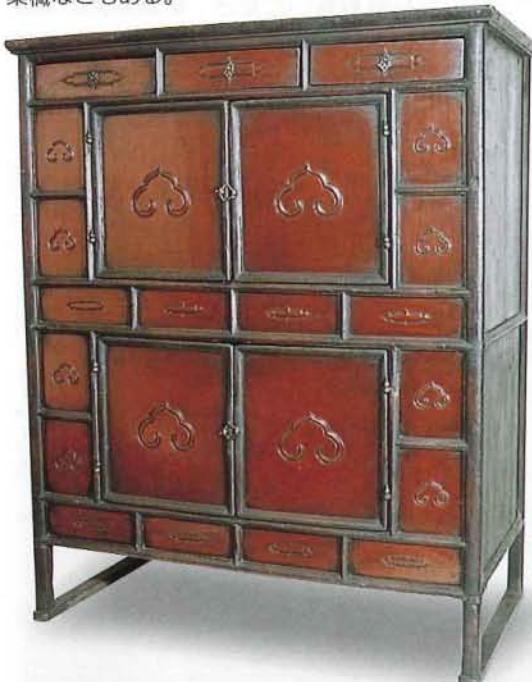
ソ アン 書 案 朝鮮時代



キョン サン 経 床 朝鮮時代後期

### (4) 箕笥

衣類や布をはじめ様々なものを収納する箕笥には、欌(チャン)や櫃(クエ)などがある。欌は一般的な箕笥で、前面に両開きの扉があり、衣服などを掛けておくか、重ねて収納する形式になっている。引き出しが付くものもある。櫃は箱状のもので、前面の上側が扉になっているものをパンダジ、上面の手前側が扉になっているものをウイツタジという。また、特殊な欌の一種に漢方薬などを種類ごとに入れておく薬欌などもある。



しゅめりにそらチャン  
朱塗二層欌  
朝鮮時代後期



パンダジ  
朝鮮時代



ヤク  
薬  
欌  
朝鮮時代後期

### (5) 函

裁縫道具や身の回りの様々な小物などを収納・保管するためのもの。女性が主に使用したため美しい装飾が施されたものが多く見られる。



朱塗螺鈿壽文函  
朝鮮時代後期



螺鈿花樹蝶文針函  
朝鮮時代後期

## (6) 鏡台

女性が使用した鏡台は、アンパン(内房)に欠かせない家具の1つであるが、常設しておくスペースがなく、また現在のような大型の鏡もなかったため、小さな箱状のものが一般的である。上面を開くと鏡があり、前面の引き出しには化粧道具が収納できるようになっていた。



しゅぬりきょうだい  
朱塗鏡台

朝鮮時代後期

## (7) ソバン

食事やお茶を置く台(膳)として使用されたもので、使用しないときはジュバン(厨房)に収納できるように小さなものになっている。天板は方形や、八角形、円形のものなどが一般的である。



はっかく 木 ソクバン  
八角虎足盤 現代

## (8) 米びつ

米や麦などの穀物を保管するためにジュバン(厨房)に置かれたもので、トゥイジュと呼ばれる。天板の一部を取り外して上から穀物を出し入れできるようになっている。ジュバン(厨房)の家具としては、他に食器や食べ物を保管するための饅櫃(チャンチャン)もある。



トゥイジュ 朝鮮時代

## II 装飾にみる伝統家具

### (1) 漆塗

漆は、家具の表面に傷や汚れが付くのを防ぐとともに光沢を出し、また防水効果もあることから、家具装飾として古くから利用されてきた。ほとんどの家具に施されており、螺鈿など様々な装飾技法の基盤となるものである。自然の木目をいかす生漆だけではなく、様々な顔料を利用した黒漆・朱漆などの色漆も多く見られる。



しゅぬりかばこ  
朱塗笠函 朝鮮時代後期



らでん ほたんからくさもん ソアン  
螺鈿牡丹唐草文書案 朝鮮時代中期

## (2) 螺鈿

薄く切ったアワビなどの貝殻を貼り付けて装飾する技法。漆地に貝片を貼り込み、その上からさらに漆を施したのち、表面を磨いて貝片の上の漆を取り去って文様を浮き立たせる。高麗時代に大きく発展した最も代表的な家具装飾である。



らでんしょいはこ  
螺鈿書類函 現代



らでんびっちょ  
螺鈿櫛筒 現代



らでんはなからくさもんほつす  
螺鈿花唐草文払子 朝鮮時代前期

## (3) 犀瑁張

南の海に生息するウミガメの一種である玳瑁の鱗板を小さく切り、螺鈿と同様に漆面に埋め込んで文様を浮き立たせる技法。螺鈿と併用されることが多い。玳瑁鈿・色伏玳瑁鈿などともいわれる。



くろうるしねり ほうりゅうもん チャン  
黒漆塗鳳龍文櫃 朝鮮時代後期

## (4) 鮫皮張

鮫の皮(皮齒)を小さく切って、螺鈿と同様に漆面に埋め込む技法。下の資料では、龍の体が鮫皮張で表現されている。



さめかわそりりゅうもん い しょうばこ  
鮫皮双龍文衣裳函 朝鮮時代

## (5) 華角張

牛や水牛の角を薄く切り、裏面に彩色を施して貼り込む技法。艶のある鮮やかな色彩が表現される。



かかくばり ほたんもんふで  
華角張牡丹文筆 朝鮮時代

## (6) 焙竹

竹の表面に焼き鎬をあてて、焦げ目で文様を表現する技法。鎬の温度やあて具合によって細かい濃淡が繊細に表現される。



ナクチュク や づつ  
焙竹矢筒 朝鮮時代



チャチュクチャンド  
焙竹粧刀 現代

## (7) 竹張

縦に割いて板状にした竹を表面に規則的に貼り込む技法。竹編みのような素朴な質感が独特である。



たけばり に そうちゃん  
竹張二層櫃 朝鮮時代

## (8) 紙張

表面に韓紙を貼り込んでその上から漆を施す技法。



かみばりまんじもんばこ  
紙張卍文函 朝鮮時代後期

## (9) 刺繡張

刺繡を施した布を前面に貼り込む技法。様々な色の刺繡糸を使うことで、色鮮やかで細かい文様・図柄が表現される。

し しゅうばり シッチャンセンモン  
刺繡張十長生文モリッ櫃 チャン  
現代



### III 装飾に描かれたもの

#### (1) 動物

家具装飾に描かれる動物は、想像上の動物である龍や鳳凰のほか、鳥や蝶・亀・魚など様々である。中でも龍は生き物の王者とされ、両班の間で好んで描かれた。これらの動物には、幸運や長寿などの願いが込められている。



らでんうんりゅうえんもん い しょうばこ  
螺鈿雲龍円文衣裳函

朝鮮時代後期



らでんか じゅけいもんまくらわきかざり  
螺鈿花樹鶴文枕脇飾 朝鮮時代後期



らでんれんとうすいきんもんまくらわきかざり  
螺鈿蓮塘水禽文枕脇飾 朝鮮時代後期

#### (2) 植物

植物も、家具装飾によく描かれる図柄である。中でも牡丹は朝鮮国を代表する花の一つとされ、西アジアから伝わった唐草文と組み合わせて、さかんに用いられた。また、松・竹・梅は、寒い冬にも屈しない植物(歲寒三友)とされ、好んで描かれた。このほか、桃や蘭・菊・ザクロなども多く見られる。



らでんほ たんからくさもんほん  
螺鈿牡丹唐草文盆

朝鮮時代中期



らでんか ちょうもんはこ  
螺鈿花鳥文函 朝鮮時代後期



らでんくろうるしてんとううんかくもんほん  
螺鈿黑漆天桃雲鶴文盆 朝鮮時代後期

### (3) 風景

植物や動物を組み合わせ、1つの風景・場面を描く構図も家具にはよく見られる。中でも、水・太陽・雲・松・鶴・鹿など10の事物を1つの場面の中に表す十長生文は、不老長寿の象徴とされ、朝鮮時代に好んで描かれた。

らでんシツチャンセンもんムンガブ  
螺鈿十長生文文匣

朝鮮時代後期



らでんくろうるしまるはこ  
螺鈿黒漆丸函 朝鮮時代後期



らでんくろうるしさんすいもんはこ  
螺鈿黒漆山水文函 朝鮮時代後期

### (4) 文字

家具装飾には、「喜」を图案化した「囍」や「寿」「福」「康」「寧」などの吉祥文字がよく表される。また、経文や咒文など仏教と関係するものもみられる。



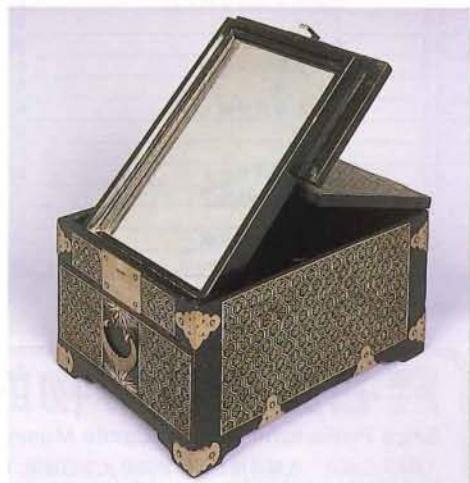
らでんきつしょう もじ もんホソクバン  
螺鈿吉祥文字文虎足盤 朝鮮時代後期



ナクチュウはんにやしんきょうほつす  
烙竹般若心経払子 現代



チャン  
モリッ欅  
現代



らでんくろうるしちくようもんきょうだい  
螺鈿黒漆竹葉文鏡台 朝鮮時代後期



## 家具を飾る金具

家具の金具は、蝶番だけでなく、それぞれの部材の固定・強化のために不可欠であるが、これらは次第に家具装飾の一部として発展した。材質は真鍮や鉄、白銅などで、蝶や亀・花や幾何学文など様々な図柄が陰刻・陽刻や透かし彫りで表現されている。

ちょうもんかざりじょう  
蝶文飾錠

現代

ようかざりかなぐ  
パンダジ用飾金具

現代



### 出品資料一覧

資料名	時代	法量(縦×横×高.cm)	摘要
1 鮫皮双龍文書櫃	朝鮮時代	32.4×57.5×108.3	
2 螺鈿十長生文文匣	朝鮮時代後期	25.7×73.8×32.0	
3 文匣	朝鮮時代	33.1×82.3×36.0	
4 螺鈿牡丹唐草文書案	朝鮮時代中期	45.0×85.0×28.5	
5 書案	朝鮮時代	26.5×65.7×27.6	
6 経床	朝鮮時代後期	32.4×65.1×37.3	
7 華角張牡丹文筆	朝鮮時代	長20.1	
8 朱漆笠函	朝鮮時代後期	37.7×38.7×21.6	
9 朱漆二層櫃	朝鮮時代後期	55.8×103.5×127.1	
10 黒漆鳳龍文櫃	朝鮮時代後期	45.5×83.7×108.0	
11 竹張二層櫃	朝鮮時代	36.9×99.0×103.2	
12 葉櫃	朝鮮時代後期	25.5×103.0×97.1	
13 刺繡張十長生文モリッ櫃	現代	36.2×62.0×50.0	金奈美(刺繡名匠)作
14 モリッ櫃	現代	35.4×56.3×58.9	千相源(小木匠 技能保有者)作
15 パンダジ	朝鮮時代	51.0×102.3×52.5	
16 パンダジ	朝鮮時代	41.0×80.1×55.0	
17 螺鈿櫛筒	現代	29.1×30.0×31.6	宋芳雄(螺鈿匠 技能保有者)作
18 螺鈿書類函	現代	32.8×25.6×10.1	"
19 螺鈿雲龍円文衣裳函	朝鮮時代後期	53.0×75.8×17.0	
20 鮫皮双龍文衣裳函	朝鮮時代	36.4×64.8×18.2	
21 朱塗螺鈿壽文函	朝鮮時代後期	28.5×45.4×27.6	
22 紙張卍文函	朝鮮時代後期	39.3×73.4×38.8	
23 螺鈿花鳥文函	朝鮮時代後期	44.8×77.0×31.4	
24 螺鈿黑漆山水文函	朝鮮時代後期	21.6×35.8×22.8	
25 螺鈿黑漆丸函	朝鮮時代後期	径36.0、高7.2	
26 螺鈿花樹螺文針函	朝鮮時代後期	37.4×37.1×11.1	
27 竹編衣裳函	現代	33.0×49.7×20.5	徐漢圭(彩箱匠 技能保有者)作
28 竹編針函	現代	径29.4×高16.4	"
29 螺鈿黑漆竹葉文鏡台	朝鮮時代後期	27.5×19.6×15.4	
30 朱塗鏡台	朝鮮時代後期	37.4×25.9×29.9	
31 螺鈿蓮塘水禽文枕脇飾	朝鮮時代後期	径12.3	
32 螺鈿花樹鸕文枕脇飾	朝鮮時代後期	径11.1	
33 螺鈿吉祥文字文虎足盤	朝鮮時代後期	径31.5、高22.5	
34 羅州盤	現代	48.2×63.3×31.8	金春植(羅州盤匠 技能保有者)作
35 八角虎足盤	現代	32.7×32.7×23.4	"
36 螺鈿牡丹唐草文盆	朝鮮時代中期	36.5×48.6×5.5	
37 螺鈿黑漆天桃雲鶴文盆	朝鮮時代後期	38.5×47.4×1.8	
38 トウェイジュ	朝鮮時代	33.7×47.0×43.0	
39 葉轎	朝鮮時代後期	99.2×88.4×114.0	
40 黒漆螺鈿龍文矢筒	朝鮮時代	長93.2	
41 烙竹矢筒	朝鮮時代	長97.5	
42 竹製葡萄文矢筒	朝鮮時代	長88.0	
43 烙竹劍	現代	長118.0	韓炳文(粧刀匠 技能保有者)作
44 烙竹粧刀	現代	長19.8(最大)	"
45 螺鈿花唐草文払子	朝鮮時代前期	柄長18.5	
46 烙竹般若心経払子	現代	柄長76.9	金基煥(烙竹匠 技能保有者)作
47 亀文簾	現代	180.0×127.8	朴成春(竹簾匠 技能保有者)作
48 パンダジ用飾金具	現代	20.0×15.0(最大)	金克千(豆羅匠 技能保有者)作
49 蝶文飾錠	現代	23.2×13.0(最大)	"

韓國重要無形文化財  
全羅南道無形文化財

## 佐賀名護屋城博物館

Saga Prefectural Nagoya Castle Museum

〒847-0401 佐賀県東松浦郡鎮西町大字名護屋 1931番3 TEL.0955-82-4905 FAX.0955-82-5664  
E-mail nagoyajouhakubutsukan@pref.saga.lg.jp  
URL http://www.pref.saga.jp/kyouiku/nagoya/nagoyaindex.htm

開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(休日の場合はその翌日)

観覧料 無料(特別企画展開催期間中に除く)

平成15年12月12日発行

編集・発行 佐賀県立名護屋城博物館

©2003 佐賀県立名護屋城博物館



環境保護のため再生紙を使用しています。